

令和3年5月29日（土）

**全国知事会 新型コロナウイルス緊急対策本部（第23回）における丸山知事
発言（要旨）**

1. インド株の対応について

島根県では、陽性者について、全ゲノム解析ではないが、必要な箇所の解析を行うことにより、陽性者の中にインド株がないかどうかのチェックはできている。

（インド株が）全国でも確認をされているが、それは、つまり、政府の水際対策自体がうまくいかなかったということの意味している。

これまでより強い変異株が入っていて、そして、すべての都道府県がそういうスクリーニングを行っているわけではなく、特にカバー率が低いところほど、感染状況が厳しく感染者数が多いところほど積極的疫学調査が十分に機能しにくい状況だということで、インド株の拡大は、現実の問題として想定しておかなければいけない状況だと思う。

2. 補正予算について

当然、（インド株等の）対策は強化していくべきであり、対策は強化しつつ、その拡大も視野に入れて対応していくということになれば、予備費が4兆円残っているという今の状況で、国会の閉会を迎えていいのか。臨時国会は、9月（開会）と言われているが、3か月間、政府は追加の財源がない状況で対応できるのかということをお大変危惧している。

資料1の緊急提言では、この補正予算の言及のところが、「情勢に即した補正予算の検討」という記載になっているが、緊急提言である以上、国会が閉会しようとしていて、そして3か月間、補正予算の編成ができない時期に入ってしまうということをお踏まえると、もう少し強い表現が必要なのではないかと思う。

3. 事業者の支援について

兵庫県の井戸知事からもお話があったが、持続化給付金とか、家賃支援給付金といったこと以前に、資金繰りを支援する制度が、昨年のこの時期よりも、随分レベルを下げられている。

影響が長期化して、事業の経営状況が月々厳しくなっているのに、1年前よりも措置が悪くなっている。

自分のメインバンクである民間金融機関から、制度融資を通じた、有利な資金が得られない、政府系金融機関でないと使えないという、政府系金融機関重視の制度でとても乗り切れる状況ではないと思っていて、これも4兆円の枠内で何とか収めようという、政府の算段が先立っているからだとは思っている。

最終的には4兆円で足りるということになるかもしれないが、このままでは4兆円の範囲でしかやらないということになりかねず、いろいろな感染症対策、そして経済対策が不十分なまま、3か月推移することは好ましくない状況だと思っているので、そういった訴えを会長からぜひお願いしたい。